

第19号

南部箕蚊屋広域連合



まめ・カフェ通信

～第19回まめ・カフェ開催報告～

令和6年2月22日(木) 18:00～19:30

伯耆町 農村環境改善センター

参加者 35名(参加者 29名、スタッフ 6名)

(医師、薬剤師、保健師、看護師、理学療法士、
栄養士、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員)

まめ・カフェとは??

医療や介護、地域に関わる私たちの仕事ってまめでなければつとまらない。

「まめなかや?(元気ですか)」と、こまめな声かけが関係づくりの第一歩!…多職種が気軽に集ってまめに話せる場所が欲しい☆という声からできたのが、

まめ・カフェです♪

講演

「多職種による心不全勉強会」

～事例を通して考える～

講師：山陰労災病院 循環器内科
医師 水田 栄之助 氏

《参加者の感想》

- ・病状の理解が出来た。ACP(アドバンス・ケア・プランニング)を行うことで、残された人生が豊かになることがわかりました。
- ・治療は最後まで緩和の目的ですということを初めて知りました。グループワークでは普段から話を聞き、何気ない会話などを通してACPの話しができる関係を作ることが大切だと感じました。
- ・心不全に対して、理解が深まりました。担当している方のアプローチに対し難しく思っていたのですが、知識もあわせてACPを取り入れていこうと思います。

会場内での様子



第19回のまめ・カフェは、講師に山陰労災病院 循環器内科の水田医師をお招きし、昨年度に続き第2弾として、心不全について詳しく学ぶことが出来ました。

心不全の治療薬や副作用、合併しやすい貧血、セルフモニタリングの方法、ACP(アドバンスケアプランニング：将来の医療・ケアに関する話し合い)についてなど、実際の症例をもとに分かりやすく説明してくださり、参加者の皆さんも学びが多かったと思います。

早い段階から予測される今後の経過や見通し、治療やケアの目標を患者と共に話し合っ共有することで、患者の自己コントロール感や満足が高まると言われています。日頃もACPを意識して、本人の価値感や意思をキャッチし、理解し、関係者間で共有しておくことが大切だと感じました。これからも多職種で連携を図り、地域全体で心不全の患者さんをサポートしていきましょう!



❖ アンケート結果の一部をご紹介させていただきました。

ご協力ありがとうございました。次回も、皆さまのご参加をお待ちしております!

発行/南部箕蚊屋広域連合

Tel: 0859-39-6222

Fax: 0859-39-6223